

税金の使い道と幸福度

福岡市立三宅中学校 3年 高井良 実音

情報番組を見ていると、社会保険料や消費税や児童手当などさまざまな税に関する情報が流れてくる。しかし日本人は税に対してプラスのイメージよりマイナスのイメージを持つ人の方が多いように思う。その二つの理由に納税したことに対して自分たちへの還元されているという実感の低さと将来への経済的不安も関係していると考えます。

令和元年十月にそれまで八%だった消費税が十%に引き上げられた。世界の国々と比べて日本の消費税率は十一位である。驚くことに、消費税率が二十五%で二位であるデンマークは幸福度ランキングで二位なのに対して日本は五十一位であった。この大きな開きに対して私は、大きな疑問を覚えた。デンマークの人々は納税に対してプラスに受け止める人たちが多く、その理由として医療費・介護サービスが無料で、大学までの学費は国が負担してくれ、出産費も無料で育児休暇中の給料もきちんと保障がされている。無料で使うことの出来る結婚式場や葬儀代もある。デンマークの人々にとって税金の使い道はとても透明化されており、生活の中で恩恵を受けていると実感できることによって納得して前向きに納税している人が多いことが分かり、そこには日本との大きな開きがあることを感じた。デンマークのロスキレ大学のベント・グレーベ教授の言葉に「国の成長とは経済成長ではない。GDPでもない。」という言葉がある。その言葉の表すように、安心ができる生活を基盤として国民の幸福感の内の人々の生活の質に転換できてこそ、さまざまな競争力が生まれると考えられている。

政治に対しても国民一人一人が関わる姿勢が強く、自分たちの力で社会は変えられると考えているため国会議員選挙の投票率は常に八十%を保っている。それに対して日本人の投票率は五十%代である。このことから、日本人は政治に対して「受け身」である傾向が強いと考えられる。税金の使われ方は、行政のホームページに使われた報告など掲示してある。しかし「受け身」であるため情報を収集しようとせず、国が教えてくれないという思考になりがちである。そのため税金の使われ方が分からず、納税するにもネガティブになる。もっと税金が何に使われ、どのように役立っているのかを知り、以前よりもより良い生活に変わっているのか理解していればもっとポジティブな意識が芽ばえるのではないかと思う。その事から、自分が選挙権が得られるようになったら税金の使い方を任せる人を選定する投票には自分も政治に関わっているという意識で能動的に参加したいと思う。

相手の立場や回りの人々のこと、自然環境について多くのことに目を向けながら、さらに自ら知ろうとする意識が大切だと考える。また、全ての人が豊かさと幸福度を実感できる社会に日本も近づいていく事を私は信じている。